

2023年6月6日

各 位

会社名 株式会社 キャンバス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号：4575 東証グロス)
問合せ先 取締役最高財務責任者 加登住 眞
IR@canbas.co.jp

IDO/TDO阻害剤 日本国特許庁から特許査定受領のお知らせ

このたび、当社及び当社共同研究先である静岡県公立大学法人静岡県立大学（以下「静岡県立大学」）創薬探索センターが創出し開発中の抗癌剤候補IDO/TDO阻害剤に関し、日本国特許庁から特許査定^{*1}を受領しましたので、お知らせします。

【発明の名称】 IDO/TDO阻害剤
【出願番号】 特願2019-549316（2019年4月25日国際出願 WO2019078246A1）
【特許権者】 一般社団法人ファルマバレープロジェクト支援機構 ・ 株式会社キャンバス

IDOとTDOはいずれも、トリプトファンを代謝しキヌレニンを生産する酵素で、さまざまな種類のがん細胞や、がん微小環境にある多くの細胞で発現しています。がん細胞は、強力な免疫抑制をひきおこすキヌレニンを産生することによって、免疫の中心的な役割を果たすT細胞の機能を抑制し、免疫系による攻撃から身を守っていると考えられています。

この酵素の働きを阻害するIDO/TDO阻害剤は、抗PD-1抗体や抗PD-L1抗体等と同じ「免疫系抗がん剤」のカテゴリに属するものであり、単剤での効果のほか、免疫系抗がん剤を含む他の抗がん剤との併用における相乗効果が期待されています。

また、私たちのIDO/TDO阻害剤は、一般に製造原価を抑制できる低分子化合物であることが特徴です。

現在広く使われている免疫系抗がん剤は抗体医薬が中心で、製造原価の高さが医療費の高騰に繋がっているという課題があります。

同様の効果を低分子化合物で実現できれば、高額な医療費を伴う現在の免疫系抗がん剤からの置き換え、あるいは、それらとの併用による効果の増強や対象患者数の増加が期待できます。

当社と公益財団法人静岡県産業振興財団は、[2016年7月に共同研究契約を締結](#)し、静岡県立大学創薬探索センターの有するIDO/TDO阻害剤候補化合物の構造最適化および評価を進めてきました。

今回の特許査定受領について、当社代表取締役河邊拓己は次のようにコメントしています。

「患者様ご自身の免疫を活用して治療を目指す免疫系抗がん剤は、今後の世界のがん化学治療の圧倒的主流になると考えられます。

免疫系抗がん剤の領域は現在のところ抗PD-1・抗PD-L1・抗CTLA-4抗体が中心ですが、抗体でなく低分子化合物による効果の高い免疫系抗がん剤の登場が期待されており、IDOとTDOの2つを阻害するIDO/TDO阻害剤はその有力なアプローチのひとつです。

今回、静岡県立大学創薬探索センターとの共同研究の成果であるIDO/TDO阻害剤が日本での特許査定受領に至ったことは、キャンバスの創薬パイプライン創出能力の高さを示すものです。

今後私たちは、このIDO/TDO阻害剤のさらなる最適化を継続し、リード化合物の特定、前臨床試験（臨床試験開始申請のために必要な非臨床データを獲得する試験パッケージ）に進めていき、将来の有望な開発パイプラインのひとつとしていく方針です」

今回の特許査定受領による当期業績への影響はありませんが、創薬パイプラインの拡充など中長期的な企業価値の向上に寄与することが期待されます。

なお当社は、CBP501臨床試験の進行やアライアンス獲得活動の動向等が2023年6月期の事業収益・事業費用等に及ぼす影響について合理的な予測が困難であることから、当期業績見通しを公表していません。業績見通しが明らかとなり次第すみやかに公表します。

以上

*1 特許査定とは、特許庁の審査で特許権を与える価値がある出願発明であると判断されたことを示すものです。このあと特許料を納付することによって、特許権の効力が発生します。当社は、特許の成立に関し、原則として米国・欧州・日本それぞれ最初の成立（特許査定）のみを公表しています。